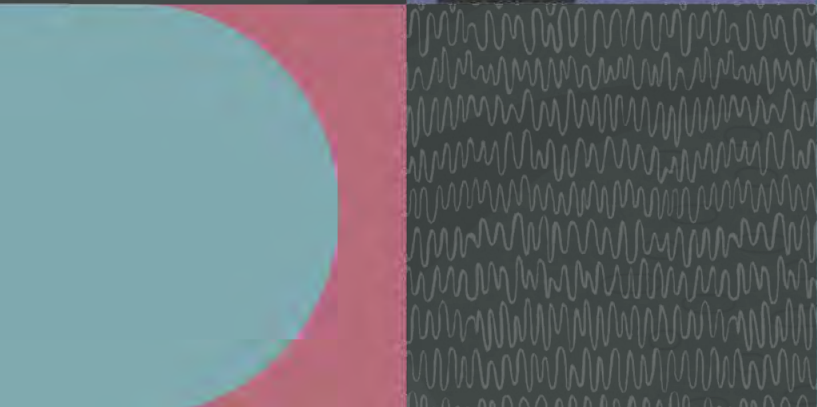


ORACLE

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の価値



Oracle EPM によって 戦略的なゴールを達成

デジタル・トランスフォーメーションによって 組織はより重要な取組みにフォーカス

ここ数年で、ビジネスを取り巻く環境は劇的に変化しました。世界的なインフレ、また、インフレ抑制を目的とした世界的な金利上昇、地政学的混乱の継続、人材不足など、企業は次に何が起こるかわからない事態に備える必要があります。

変動が激しく絶え間なく変化する環境の中で、デジタル・トランスフォーメーションへの取り組みも進んでいます。企業はこの変革の一環として、クラウドに対応したテクノロジーの導入をこれまで以上に加速させています。最新の「2022 Value of EPM Survey」では、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management (EPM) が、業務や効率性の向上にとどまらないメリットを提供していることが明らかになりました。Oracle Cloud EPMは、企業が環境、社会、ガバナンス (ESG) への取り組みを強化することや、連結経営における重要プロジェクトに役立っています。

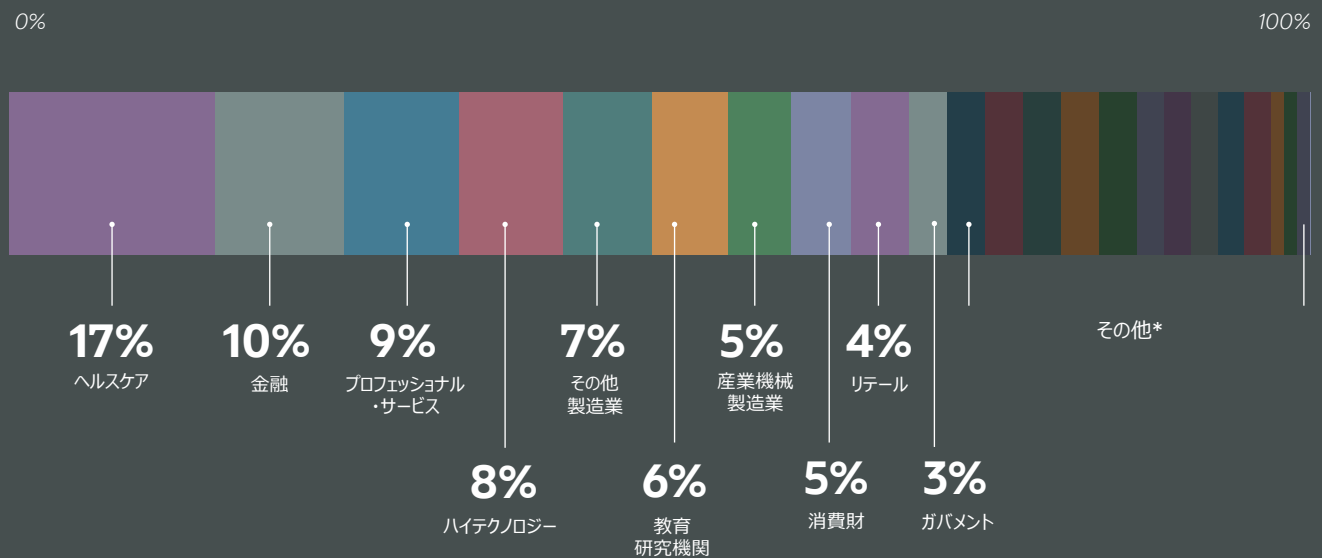
"マクロ環境は、よりダイナミックに変化している。例えば、サプライチェーンにおける電子機器の不足、インフレ、出荷の課題などは、社内のプロセスで管理できる範囲を超えている"

グローバルヘルスケア企業、サプライチェーンマネージャー

企業がOracle Cloud EPMに移行した理由、ビジネス・プロセス、および達成したメリットをより深く理解するために、オラクルでは500人以上の財務担当者を対象に調査を実施しました。調査対象企業は、EPMテクノロジー導入のさまざまな段階にあり、すでにOracle Cloud EPMを導入している企業、移行を検討している企業、移行準備段階の企業も含めています。

この調査には22を超える業種の企業から回答が寄せられ、なかでもヘルスケア、金融サービス、専門サービス、ハイテク、製造業が最も多くありました。回答者は世界の多くの地域を代表しており、中でも多くの回答者は、北米（73%）地域に拠点を置いています。企業規模はさまざまですが、20%の企業は、収益（または政府予算）が10億ドル（USD）以上と回答しています。また、企業は回答者の54%以上が役員クラス以上でした。

回答者の属する業界の Top 10



*回答者はさまざまな業界から参加

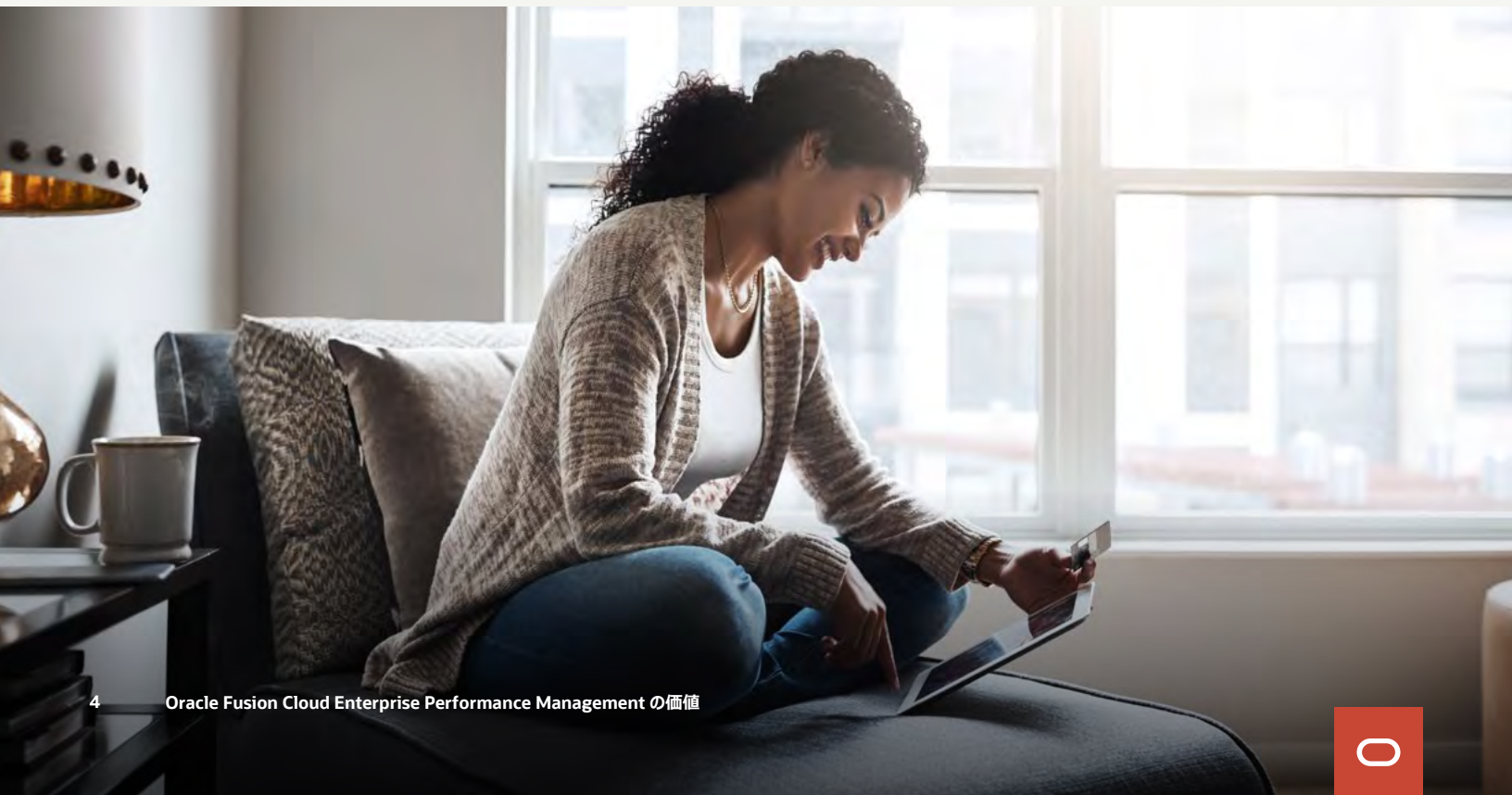


私たちは、企業における現在の財務プロセス、課題、目標と、クラウド移行によって得られるメリット等の質問を行いました。調査回答結果では、従来のスプレッドシートやオンプレミスツール、ニッチなソリューションでは、今日のダイナミックな環境には不十分であり、Oracle Fusion Cloud EPMが、これらに代わる選択肢としての価値があることが示されました。

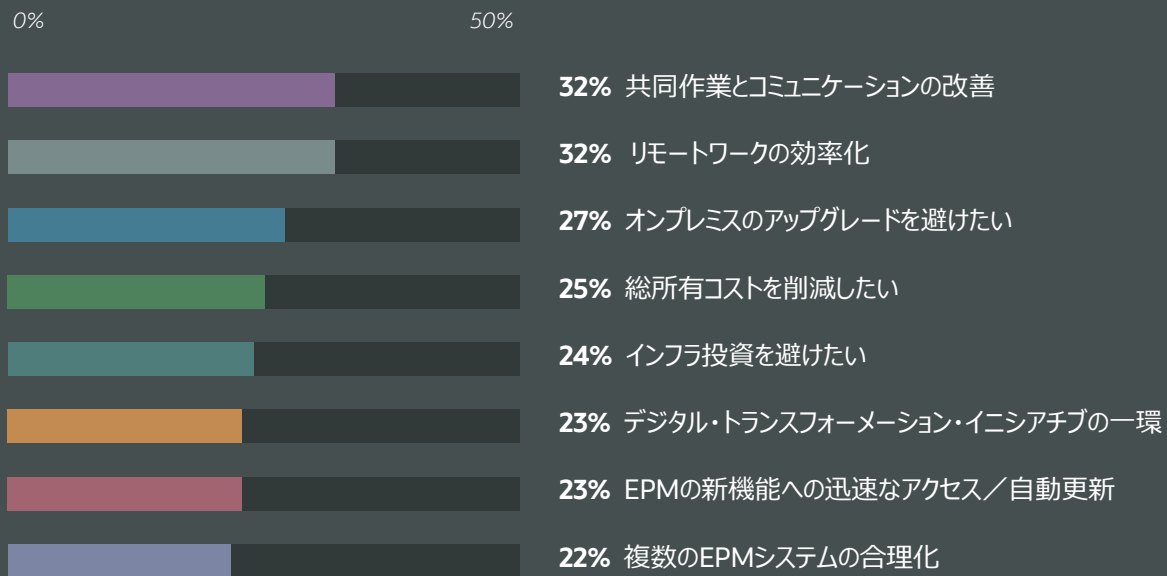
本稿では、2022 Value of EPM Surveyの結果より、EPMビジネス・プロセスの現状と、Oracle Cloud EPMが、事業計画、ESG、決算、およびエンタープライズ・データ管理の分野で、実際にどのように支援しているかを詳しく見ていきます。

デジタル・トランスフォーメーションへの取組みが重要性を増す

2020年に実施した調査結果と同様、顧客がOracle Cloud EPMに移行した理由の1位と2位は、リモートワークの効率化とコラボレーションの向上でした。その他の理由としては、EPMの各種新機能が自動アップデートされてすぐに使えること、総所有コストの削減、オンプレミスのアップグレードやインフラ投資の回避など、コスト関連の動機が挙げられました。しかし、今年の回答には新たな理由が見られました。23%の回答者が、Oracle Cloud EPMへ移行はデジタル・トランスフォーメーション・イニシアチブの一環であると回答していたのです。



Oracle Cloud EPM に移行したきっかけは何ですか？



さらに、調査対象者の82%は、EPMのすべての機能を1つのベンダーの製品で活用することが重要だと感じています。現在の経済状況を考えると、このような意見は理にかなっています。多くの企業は、シンプルに統合されたシステムで、コストを管理しながら景気減速を乗り切ろうとしているためです。



計画策定のプロセス

EPM の未来は合理化と接続性

企業は、業種を問わず、労働力の変化やサプライチェーンの課題、経済の不確実性、新規参入企業との競争など、数え上げればきりが無いほどの変化に直面しています。急速な変化に対応する中で、手作業によるプロセス、データのサイロ化、データの不正確さ、業務システムとの統合の欠如など、事業計画と予算編成に関する無数の課題に直面しています。今までは、計画立案と予算編成業務では、スプレッドシートや、異種システムからのデータの手作業による調整などで、さまざまなツールを活用してきました。しかし、このようなツールは人的リソースを必要とし、エラーが発生しやすく、組織の全体像を把握することができません。

Oracle Cloud EPMに移行していない企業では、財務部門と業務部門における計画策定のプロセスが依然として分断されており、最重要の課題となっています。同様の課題は、2020年の調査でも表明されています。

"私たちの会社にはたくさんの "事業の組織"がありますが、それらすべてをつなぐシームレスな方法が必要なのです"

アナリスト、北米ホスピタリティー企業

計画における主な課題



非効率で
分断されたプロセス



タイムリーなデータ
にアクセスできない



予算編成および
予測ツールの欠如

クラウドでのプランニングにより 効率性と正確性が向上

さまざまな業種、地域のお客様が Oracle Cloud EPMを計画および予測に使用することで、様々なメリットを得ています。たとえば、Oracle Cloud EPMによって、スプレッドシートの使用を平均40%削減できています。

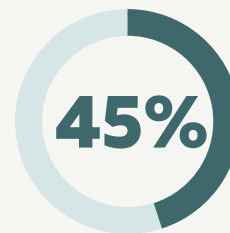
先に示したように、スプレッドシートの使用は、顧客以外の企業におけるプランニングの課題の上位を占めています。オラクルの顧客は、Oracle Cloud EPMへの移行により正確性が向上しています。最も多く挙げられている利点は、予測日数の短縮、予測精度の向上と、計画と予測業務に対する柔軟性の向上です。

"データ収集がより早くなり、エラーが削減された"

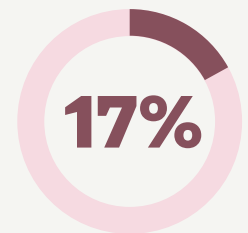
**欧州金融機関の財務部門の
管理職**

"企業にとっては、自社の数字を見たり、対話したりすることが容易になり、予測の作成におけるの負荷を私たちと分担することができるため、手作業で統合する必要がなくなります。"

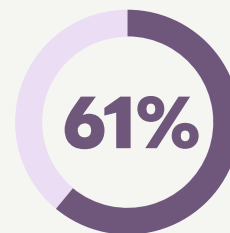
北米の公共機関、シニアディレクター



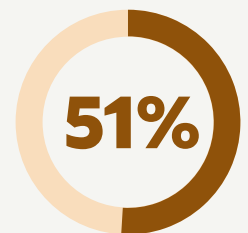
月次の計画業務の
時間削減



アクションを実行する
ための時間の増加分



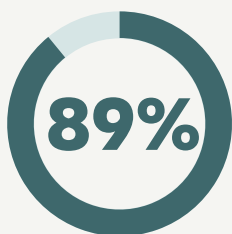
予測精度の向上



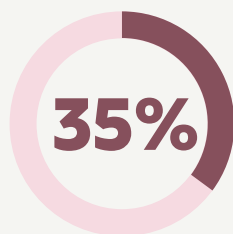
年間計画策定にかかる
時間の削減

Oracle Cloud EPMの顧客は、事業計画をESGの取組みと繋げて、ESGの取組みを大幅に推進

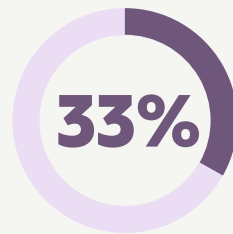
計画策定部門が享受するメリットは、作業効率の利益だけではありません。今年、Oracle Cloud EPMを採用してプランニング機能とプロセスを拡張している顧客について調査しました。Oracle Cloud EPMの顧客は、オラクル以外の顧客と比べて、財務計画と業務計画を連携させる傾向が高くなっています。



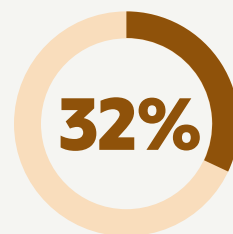
サプライチェーン・
プランニング／
統合ビジネス・
プランニング連携



販売計画と連携



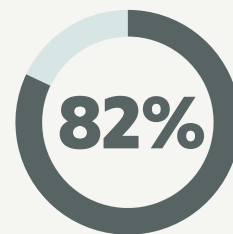
プロジェクト財務計画
と連携



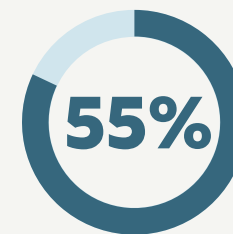
人財計画と連携

投資家、顧客、従業員、その他のステークホルダーが、ESGへの強いコミットメントを持つ組織への投資、取引を優先し、また、その組織で働くことを希望しています。ESG報告もここ数年、組織にとって最重要課題となっています。ダウ・ジョーンズは、ESG投資は今後3年間で2倍以上に増加し、2025年までに投資全体の15%を占めると予測しています。¹

回答者の大半（76%）は、ESGの取り組みが今後12カ月間に自社のビジネスに与える影響が高～中程度になると予測しており、当社の顧客は、ESGの取組みをサポートするためにEPMを利用していることを示しています。



EPMによって環境に関する
洞察とデータ収集が改善さ
れる可能性が高くなる



EPMを使用してESGドライバー
とイニシアチブをモデル化し、
予測する可能性が高くなる

¹ www.dowjones.com/press-room/esg-investment-expected-to-more-than-double-in-the-next-three-years-new-research-from-dow-jones-shows/

決算プロセス

決算処理における課題として最も多く挙げられたのは、非効率な手作業プロセスとスプレッドシートでした。この種の課題は、Oracle Cloud EPMを利用していないお客様を対象とした過去の調査でも一貫して挙げられています。もう一つの一般的な課題は、多くの企業が直面している勘定照合プロセスの煩雑さです。この決算プロセスの複雑さは、決算締め処理のサイクルの遅延の主な原因としてしばしば挙げられています。

決算処理における主な課題



非効率な手動プロセスと
スプレッドシート



決算プロセスの
モダナイゼーション
の必要性



煩雑な勘定照合

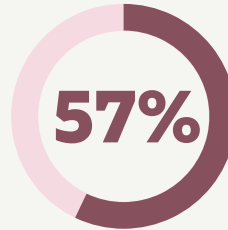


クラウドでより速く、より簡単に決算処理を完結させる

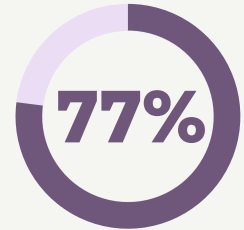
Oracle Cloud EPMの顧客にとっての主なメリットには、決算までの時間の短縮、複雑さを軽減した決算プロセス、事前構築された機能による俊敏性の向上があります。



事前構築されたクローズ機能で時間を節約し、敏捷性を向上



決算の締め処理にかかる日数の削減

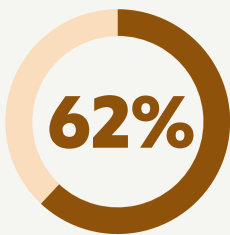


報告書の作成と提出にかかる時間を短縮

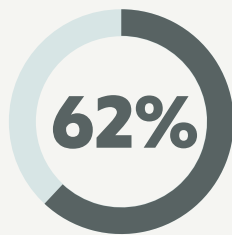
“連結プロセスと月末締めの簡素化。すべてのレポートが1つのシステムにまとめられ、複数のシステムやExcelからではなく、Cloud EPMから引き出されるようになりました。”

シニアディレクター、世界的なタイヤメーカー

Oracle Cloud EPM 以外の顧客が主な課題として指摘していた勘定照合プロセスは、Oracle Cloud EPMに移行した顧客においては劇的に改善されました。



トランザクション・マッチングによる効率化



取引照合のためのスプレッドシートの使用量削減

“データを分析し、その結果に基づいて変更を加えることに、より多くの時間を費やすことができるようになりました。”

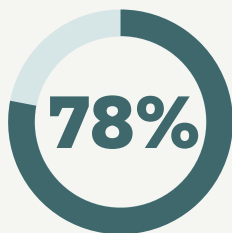
シニアマネージャー、世界的なヘルスケア企業

企業データ管理プロセス

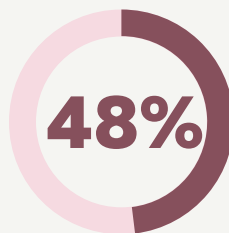
クラウドでより速く変革

今年、Oracle Enterprise Data Management (EDM) を使用した財務マスター・データの管理に関する質問を取り上げました。Oracle EDMは、勘定科目 (CoA: Chart of Accounts) の再設計を簡素化し、アプリケーションごとの構成時間を短縮することで、顧客のデジタルおよび財務の変革の迅速化に役立っていることがわかりました。

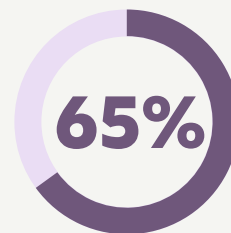
[当社の調査](#)によると、Oracle EDMの顧客は、定型的な勘定科目 (CoA) の変更 (科目のみならず新しいコスト・センターの追加など) の管理や、より変革的な構造的変更 (合併や買収など) の管理に関して、生産性と効率性の向上を最大のメリットとして挙げており、そのほとんどが最短3~6か月でこれらのメリットを実現しています。これらの企業では、ビジネスの変化に迅速に適応すると同時に、効率性と透明性を獲得しています。



生産性の向上と
変更管理の効率化



構造変化の透明性の向上



業務変更管理の
時間短縮

Oracle EPM は、組織が将来に集中できるよう支援します

Oracle Cloud EPMを採用した財務チームは、大きなメリットを得て、世の中の変化にうまく対応できるようになっています。これらの企業は、分離されたプランニングや手動のスプレッドシート、複雑な決算プロセスから、より迅速で正確なビジネス上の意思決定を行うためのコネクテッド・プランニングをサポートする環境に移行しています。オラクルの顧客は、コラボレーションを改善し、リモート作業プロセスをアップグレードし、技術的負債を削減し、デジタル・トランスフォーメーションを加速しました。また、Oracle Cloud EPMを採用していない企業よりもESGに関する洞察とデータ収集が改善されている傾向が高く、これはESG報告ルールが進化するにつれて重要性を増していくでしょう。

スピードと俊敏性がかつてないほど重要な時代においてOracle Cloud EPMの顧客は明確な優位性を持っています。

Oracle Cloud EPMをご検討ください

[サイトを見る](#)